

小学校理科カリキュラム 2年

大項目	中項目	小項目	備考
A 物質・エネルギー	(1) 風で動くおもちゃ 風で動くおもちゃをつくったり動かしたりすることで、風の働きについての考えをもつことができるようにする。	ア 風で動くおもちゃの動き方は、風の強さや風の向き、風を受ける部分の大きさで変わること。	風で動く車、 ^{かざろ} 風輪、ずぼんぼなどの科学工作を通して見いださせる。
		(2) 光と影 いろいろな物を使って影をつくる活動することで、影のできる方向や形、濃さなどについての考えをもつことができるようにする。	ア 日光をものでさえぎると、さえぎった物の太陽側の表面が明るくなり、太陽と反対側に影ができること。
	イ 物の影の濃さや色は、影をつくる物によって違いがあること。		いろいろな物体で影をつくる活動の中から、光をさえぎる物体によって光の透過性が異なることを見いださせる。
	(3) いろいろな音 いろいろなものを使って音を出したり伝えたりすることで、音が出ているものは振動していることや、糸などは振動を伝えることができることなどの考えをもつことができるようにする。	ア 音が出ているものは振動していること。	自分の声帯、太鼓、スピーカーなど、身の回りで音を出しているものを扱う。
		イ 糸などは振動を伝えること。	糸電話などの科学工作および科学遊びから、音は物体の振動で伝わることを見いださせる。
	(4) 電気の通り道 乾電池に豆電球などをつなぎ、電気を通すつなぎ方や電気を通す物を調べ、電気の回路についての考えをもつことができるようにする。	ア 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。	乾電池、豆電球、導線を用いて豆電球を点灯させる活動から、回路の概念を見いださせる。
		イ 電気を通す物と通さない物があること。	いろいろな物をアで扱った回路にはさみこむ活動から、電気を通す物と通さない物があることを見いださせる。
	(5) 目で見てわかる物質の変化 物が水に溶けたときの様子を観察するとともに、他の物質と混ぜたときや加熱したときに見られる物質の変化を体験し、物質の変化についての考えをもつことができるようにする。	ア 身の回りの粉末を水に入れてかくはんすると、溶ける物と溶けない物に分けられること。	
		イ 紫キャベツなどでつくった色水に、酸性やアルカリ性の水溶液を加えると、色に変化が見られること。	レモン水や重曹水溶液など、身近な素材を利用する。
		ウ みょうばんの水溶液などで紙に文字や絵をかき、これを加熱すると変化が見られること。	

小学校理科カリキュラム 2年

大項目	中項目	小項目	備考
B 生命・地球	(1) 身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。	ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。	理科の導入として、多くの生物に接し、身近な自然を観察して記録することに主眼を置く。
		イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。	生物がすみ場所にも目を向け、生物と環境のかかわりという視点を養う。
	(2) 太陽の動き 太陽の一日の動きを観察して、その特徴やきまりについての考えをもつことができるようにする。	ア 太陽の動きには一定のきまりがあること。	太陽の一日の動き（東→南→西）（低→高→低）を扱う。
		イ 太陽は、1日たつと前日と同じ位置にあること。	太陽が一日で1周することを扱う（地動説の根拠）。
	(3) 石の仲間分け 身近な石を観察し、石には様々な種類があることについての考えをもつことができるようにする。	ア 石には、色、形、手触りなどが違うものがあること。	形、色、手触りで、石を仲間分けする。大きさでの区別はしない。
		イ 石は、河原やがけにたくさん見られること。	河原やがけでの岩石採集を行う。できれば野外観察を行う。